

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2019年8月20日発行

編集・発行：中央教育研究所(株) 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-6

<http://www.chuoh-kyouiku.co.jp>



中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」

vol.90

<生徒を叱る！>

講習の真っ最中、読者の皆さんは、どんな授業を展開していますか。そして、どうコミュニケーションを生徒と取っていますか？

先月は、生徒のモチベーションについて書きました。生徒と良好な関係を築いてもらいたくて書いたわけですが、今月は、真逆に、生徒を叱ることについて書こうと思います。たとえ、ちょっと関係がギクシャクすることになっても、それをしなければ、学習塾ではないということを書きます。

ここ数年、「若い教室長が生徒を叱ることが出来ずに、校舎運営が混乱している」といった相談をよく受けます。今に始まったことではないですが、最近はその数が多くなり、塾長すら生徒を叱れないというようなことまで出てきました。

一体、それは、なぜなのか。若い講師や教室長が、叱られて育てられてないということもあるでしょうが、仕事の本質を分かっていないということもあるのでしょうか。学習塾の仕事が、どういう仕事なのか。まずは、ここからスタートしましょう。

学習塾は、客商売の上に、指導業が乗っている仕事です。つまり、サービス業の上に、指導業が乗っている、教育サービス業なのです。ですから、前提としては、サービスを提供することが、当然の仕事になりますが、このサービスを大人ではなく、子どもに提供することが、メインになるのです。ここに、指導業が乗る一つの理由があります。

大人にサービスを提供するのに指導は必要ありませんが（最近はその大人もおかしくなっているようで、多少の指導は必要な場面がありますが）、それは、既に大人は、子ども時代に指導を受け、ある程度の公共性を有していることを前提にしてサービスを提供するからです。

しかし、子どもには指導が必要になるのです。まさに、指導を受ける途中にいるからです。つまり、公共性を獲得させるために。そして、その枠組みを前提にサービスが提供されるのですから。

学習塾は、子どもに教科的な知識を教えることを通して、公共性を教えているのです。人の話を聞く時は、どういう態度でいるのか。人の指示を聞いて実行するとはどういうことなのか。他人に迷惑をかけないということは、どういうことなのか。準備をする意味は何なのか。自分が理解できないことを他人に聞くにはどうすれば良いのか。何かを学ぶためには、どうすれば良いのか、等々。色々な生きる力を実は教科を学習していくプロセスで学ぶのです。

ですから、生徒が公共性に反することをすれば、当然叱るこ

とです。生徒のために、叱るのです。そして、叱ったことを周りの生徒にも知らしめることです。周りの生徒も、それを見て、叱られた意味を知るからです。そして、他山の石にするからです。

生徒と巡り合った奇蹟を私たちは、大切にしたいものです。生徒は、大人になっていく存在です。今の生徒が何十年後かに、立派な大人になっているように、今を大切に、しっかり叱るのです。こんなことを大人になってしては、この子のためにならない！と思って、しっかり叱ることです。これが、指導業のミッションです。そして、今嫌われても、いつかは、「あの時、あの先生が叱ってくれたから、今の自分があるんだな」と思い出してくれることを信じて、今を叱るのです。

秩序ある教室を私たちは、求めましょう。生徒に迎合することも、保護者に迎合することもありません。教育方針に沿って、しっかり教室運営をしていけばよいのです。しかし、その教育方針が独りよがりではいけません。こちらはこちらで、教育方針を鍛えましょう。ということは、生徒を指導する人間は、日々の精進が必要だということです。

夏期講習も残り数日だと思います。終わり良ければ総てよし！の精神で、素晴らしい講習にしてください。

【編集後記】

2019年第2回MBAセミナー開催決定！！

「人が集まる塾にするための集客・教務・広報」

9/29(日)東京・10/20(日)福岡・10/27(日)大阪 お申し込み受付中です！

【参加費(昼食付・税別)】 一般参加…10,000円

メルマガ「塾経営の戦略・戦術エキスストラ」読者…7,000円

※MBA塾経営革新メンバーの方は特別価格でご案内します。

★詳しくはこちら★ <https://management-brain.net/mbaseminar02/>

中土井流の授業術を徹底伝授するストリーミング動画

「生徒のやる気を引き出す教師の授業スキル」好評発売中！

「受容」「共感」「承認」をキーワードに、授業で興味や驚き、感動を与え、

生徒のやる気を引き出す方法をお伝えします。

☆詳しい内容紹介・ご購入はこちら★

<http://management-brain.com/lp2>

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.54

この春に行われた文科省「全国学力・学習状況調査」の結果が7月末、公表されました。報告書には大量のデータが並んでいますが、その中に「児童生徒質問紙と学力のクロス分析」と名付けられた一章があります。いろいろな質問に対する児童生徒の回答と各教科の正答率との関連を調べたもので、相関関係のあるものもないものも見られますが、ここでは中学生の、とくに興味深い質問項目に絞って紹介することにしましょう。

◆朝食を食べていますか？

A「している」82.3%、B「どちらかといえば、している」10.7%、C「あまりしていない」4.9%、D「全くしていない」2.0%。

平均正答率	国語	数学	英語	平均
A	74.8%	62.5%	58.0%	65.1%
B	68.3%	52.9%	51.4%	57.5%
C	63.3%	46.9%	47.3%	52.5%
D	60.6%	44.9%	45.7%	50.4%

朝食と学力との関係については以前から指摘されていたことです。見事な相関関係が示されていますね。食べたほうが良いに決まっています。が、食べ盛りの年齢の子どもたちがなぜ食べられないのか、われわれとしてはそこを考える必要があるのではないのでしょうか。

◆毎日、同じくらいの時刻に起きていますか？

A「している」57.2%、B「どちらかといえば、している」35.6%、C「あまりしていない」5.9%、D「全くしていない」1.2%。

平均正答率	国語	数学	英語	平均
A	73.6%	60.9%	56.9%	63.8%
B	73.9%	60.7%	56.7%	63.8%
C	68.8%	56.2%	54.0%	59.7%
D	58.6%	46.7%	47.4%	50.9%

全体の1.2%だけ存在するDの「全くしていない」生徒を除いて、相関性はあまりないようです。これは「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という類似の質問に関しても同様で、こちらはAの3教科平均が63.9%、Bが64.6%、Cが61.4%、Dが54.2%でした。

◆先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか？

A「当てはまる」31.2%、B「どちらかといえば、当てはまる」50.2%、C「どちらかといえば、当てはまらない」14.2%、D「当てはまらない」4.3%

平均正答率	国語	数学	英語	平均
A	74.8%	62.8%	58.5%	65.4%
B	74.0%	61.0%	56.8%	63.9%
C	69.4%	55.4%	53.1%	59.3%
D	65.6%	52.2%	50.8%	56.2%

指導者の仕事の一つはやはり、子どもを「認める」ことです。期待をかければかけるほど「できないこと」に目を奪われがちですが、そこはぐっと我慢！「できたこと」に目を向けて、一緒に喜んであげましょう。

◆学校の部活動に参加していますか？

A「運動部にだけ参加している」65.9%、B「文化部にだけ参加している」20.5%、C「運動部と文化部の両方に参加している」1.0%、D「運動部、文化部のどちらにも参加していない」12.5%。

平均正答率	国語	数学	英語	平均
A	73.0%	60.9%	56.5%	63.5%
B	78.1%	63.4%	59.5%	67.0%
C	70.1%	58.0%	55.8%	61.3%
D	67.0%	52.6%	51.8%	57.1%

文化部だけ参加の生徒の正答率が一番高く、帰宅部の生徒の正答率が最低ですね。その差は平均10ポイント。かなりな差といつてよいでしょう。

◆普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、部活動をしますか？

A「3時間以上」9.8%、B「2時間以上、3時間より少ない」42.3%、C「1時間以上、2時間より少ない」31.4%、D「30分以上、1時間より少ない」3.4%、E「30分より少ない」1.1%、F「全くしない」11.9%。

平均正答率	国語	数学	英語	平均
A	66.7%	52.7%	51.7%	57.0%
B	74.0%	61.2%	56.9%	64.0%
C	76.6%	64.7%	59.2%	66.8%
D	73.8%	61.0%	57.3%	64.0%
E	71.3%	58.4%	56.1%	61.9%
F	67.1%	52.6%	51.8%	57.2%

部活動に参加していない生徒も含めた調査。C「1時間以上、2時間より少ない」がトップで、A「3時間以上」が最低。その差は9.8ポイント。

ご存じでしょうが昨年3月、スポーツ庁が「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を提示しました。そこにはこうあります。

「学期中は、週当たり2日以上の日を設ける」

「1日の活動時間は、長くとも平日では2時間程度、

学校の休業日（学期中の週末を含む）は3時間程度」

中学生の本業である学業を優先すれば、「2時間以内の活動」が最善だと数字にも出ています。しかし、「勝利至上主義者」や「スポコン命の信奉者」の多い部活関係者のなかには、これを無視する傾向が顕著だと言われています。「子どもたちのためによかれ」と信じてやっているのでしょう。「しつけ」のつもりで行う「児童虐待」、「この子のために」のつもりで行う「教育虐待」と同じ構図です。善を行っているつもりで不善はどうにも度し難い！

どうすれば目を覚ましてもらえるのでしょうか。

以上、興味深い項目を5つだけ紹介しました。このクロス分析には「子どもたちの成績を伸ばすヒント」が山ほど眠っています。お暇な折に一度、目を通してくださるようお勧めしたいと思います。